

JASEB 第 45 回研究大会 エクスカーションのお知らせ

見えない川を感じ、東京の凸凹を歩く

～目白台周辺のエクスクーションで探る、理科教育の新たな可能性～

教室の扉を開け、足もとのフィールドへ。理科の学びは、時に教室の外に大きく世界を広げることから始まります。

第 45 回研究大会の会場校となる筑波大学附属視覚特別支援学校が立つ「目白台」。この周辺は、東京の山の手を特徴づける台地と谷が織りなす、ダイナミックな地形が実感できる絶好のフィールドです。

今回のエクスクーションは、ただの街歩きではありません。皆で「プラタモリ」のように、地形を手がかりに街の謎に迫ります。台地の縁から急な坂道を下り、谷底へ。そこには、今は暗渠(あんきょ)となり姿を消した「旧弦巻川」の記憶が眠っています。

このエクスクーションの後では、学校へつながるあの急階段の意味が、きっと違って見えてくるはずです。

理科の本質は「見えないモノをみえるようにする」こと。

失われた川の流れ、地下をめぐる水脈——。これらは直接目には見えません。しかし、谷底に今も湧き続ける自噴井戸の水に触れるとき、私たちは五感を通して「見えない川」の確かな息吹を感じることができるでしょう。この体験は、視覚情報に頼らずに世界の成り立ちを捉えるという、視覚障害理科教育の実践を考える上で、非常に豊かな示唆を与えてくれます。

この企画は、本研究会の田口公則会員(神奈川県立生命の星・地球博物館)と柴田直人会員(筑波大学附属特別支援学校)がご案内します。地域の特質とその変貌、歴史的背景をひもときながら、以下の視点で参加者の皆さんと対話や発見を深めたいと考えています。

この坂の傾斜、この高低差を、どうすれば生徒に伝えられるだろう？

「坂の石垣」や「谷底の井戸」をテーマに、どんな触れる教材が作れるだろうか？

足もとの地形から、科学的な探究心をどう引き出すか？

日々の実践のヒントから、学校教育の枠を超えた社会教育・生涯学習の視点まで。緑深まる目白台を歩きながら、共に「巡検」の新たな可能性を探求してみませんか。

【実施日時】研究大会 2 日目の 2025 年 7 月 29 日(火)13 時ごろから約 1 時間程度

【参加申込】研究大会 2 日目(7/29)に大会会場にて参加者を募ります。

【コース】

研究大会 2 日目の終了後、各自昼食を済ませた後、367 教室(大会会場)に 13 時集合。

筑波大学附属特別支援学校校門⇒薬罐坂⇒不忍通り横断⇒星の井、清土鬼子母神堂⇒弦巻川旧河道(自噴井戸)⇒同じ道で学校まで戻ります[学校から弦巻川の往復約 600 m]